

## 門真市幼保小の架け橋期カリキュラムの検討単位について

## &lt;検討単位ごとの特徴・課題&gt;

検討単位	特徴・利点	課題
小学校区単位	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園と小学校との顔の見える連携が可能</li> <li>・地域の実情に応じた取組が進めやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市全体での方向性共有が難しい</li> <li>・取り組みの差が生じやすい</li> </ul>
中学校区単位	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前から義務教育9年間を含む15年間を見通した接続が可能</li> <li>・小中一貫の教育課程と整合性が取りやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・範囲が広く、園と学校間の具体的な関係づくりに工夫が必要</li> </ul>

## ◎中学校区単位での連携を補う具体的な取組（例）

- ・幼保小中合同研修会の定例化  
→幼保小中合同研修会を定期的を開催
- ・取組事例の共有  
→各中学校区の架け橋期取組事例を市全体で共有
- ・教職員交流の推進  
→教職員の園と学校との垣根をこえた訪問、授業・保育参観などでの交流の取り組みを推進

## 【事務局案】

門真市幼保小の架け橋期カリキュラムは、国の定義に基づき「幼保小」として整理するが、就学前から義務教育を終えるまでの15年間を見通した取組として位置づけ、中学校区単位での整理・検討を基本としたい。